

## インフラ・災害対応・建設分野におけるロボット活用に係る論点

(基本的な考え方)

- ◇ 建設（一般）
  - 人口減少・少子高齢化による働き手不足（技能者不足含む）
  - 屋外生産・単品受注生産のため、他産業と比べ低い労働生産性
  - 重労働・危険作業を解消し、現場環境の改善に期待
- ◇ インフラ（維持管理）
  - 高度経済成長期に集中的に整備された社会インフラの老朽化が深刻
  - 点検、診断、補修等に必要な技術者不足が懸念。産業インフラ含め、インフラ管理等における省力化・省人化に期待
- ◇ 災害対応
  - 全国で頻発している集中豪雨・土砂崩落・地震・火山等の自然災害
  - 被災直後の調査や応急対策を迅速化し、被害軽減、早期の復旧・復興に期待
- ◇ ロボット革命実現（開発・導入）に向けた重要な視点
  - ロボットが行うべき作業を見極め、戦略的に重点分野への絞り込み
  - ロボットを活用する作業のみでなく、前工程・後工程を含む全体工程をシステムとしてとらえた合理化
  - ターゲット（開発目標）とマーケット（開発後の市場規模）の明確化
  - 目標設定～開発支援～実証・試行～普及加速支援までの一貫した取り組み

(ロボット開発)

- ◇ 現場ニーズに基づく開発を支援（重点的に対応すべき分野の特定）
- ◇ システム全体の合理化を実現する技術開発を支援
- ◇ 事業化意欲ある者（ベンチャー等）が活躍できる技術開発

(現場導入支援)

- ◇ 実際のフィールドを用いた実証・評価、開発へのフィードバック
- ◇ 率先的にロボットを活用する『モデル事業』（試行工事）の実施
- ◇ ユーザーを見極めた適切な導入支援（地方の中小建設業者など）
- ◇ 特殊ロボットに対する公的機関による直接配備と運用体制確保

(市場環境整備)

- ◇ 標準化や性能・安全性認証、制度の見直しなどの環境・基盤整備

- ◇ 公共事業の生産性向上や省人化のために、品質確保を前提とした監督・検査のさらなる合理化
- ◇ ロボット技術による苦渋・危険作業からの解放、継続的な技術革新による建設産業の魅力向上

(海外市場獲得)

- ◇ 海外への戦略的な売り込み

以 上